

行 動 計 画

新 函 館 2 0 1 5



このまちに暮らす すべての人と
未来をひらくまちづくり

新函館	2015
新青森	2010

北海道新幹線開業アクションプランスタートシンポジウム

新幹線開業をいかしたまちづくり

平成 21 年 2 月 5 日(木)15:00~18:00 ホテル函館ロイヤル

主催：北海道新幹線開業はこだて活性化協議会
 共催：函館商工会議所新幹線開業対策特別委員会
 新幹線青森・函館早期開業促進期成会
 北海道新幹線函館資材協力会

- プレゼンテーション「アクションプランについて」
北海道新幹線開業はこだて活性化協議会事務局
- 基調講演「新幹線開業をいかしたまちづくり」
藻谷 浩介 氏 日本政策投資銀行地域振興部参事役
- パネルディスカッション「北海道新幹線開業に向けて取り組むべきこと」
(パネリスト)
 薮沢 憲吉 氏 当協議会交通アクセス部会長
 函館工業高等専門学校 教授
 鈴木 恵二 氏 当協議会観光振興部会長
 北海道大学大学院情報科学研究科 教授
 金子 隆敏 氏 当協議会産業振興部会長代行
 (財)函館地域産業振興財団 事務局長
 長野 章 氏 公立はこだて未来大学 教授
 (コメンテーター)
 藻谷 浩介 氏
 (コーディネーター)
 櫻井 健治 氏 当協議会委員
 函館商工会議所常務理事

0 9 年 2 月 5 日

北海道新幹線開業はこだて活性化協議会
 新函館までの早期開業を！

新春特集

北海道新幹線開業はこだて 活性化アクションプラン

～このまちに暮らすすべての人と
未来をひらくまちづくり～

北海道新幹線開業はこだて活性化協議会（事務局：函館商工会議所、以下「新幹線活性協」）では、構成団体の函館市、(社)函館国際観光コンベンション協会ならびに函館地域の各種業界団体とともに、北海道新幹線新函館（仮称）駅開業時の経済効果を最大限に生かすため、平成19年6月よりテーマ別の専門部会を設け、アクションプラン（行動計画）の策定協議を進めてきました。このたび開業に向けて取り組むべき3分野26施策58項目がまとまり、平成20年11月開催の同協議会臨時総会で承認されましたので、その概要をお知らせします。アクションプランの推進にあたり皆様のご協力をお願い申し上げます。



アクションプラン策定の経緯

平成17年5月
北海道新幹線着工

平成27年度新函館開業に向けた地域振興策の必要性
官民協働による推進体制の必要性

平成18年9月
新幹線活性協設立

新幹線開業効果を最大限に生かした産業等の振興や地域発展のため必要な事項の検討・協議を目的に官民協働で設立

平成19年6月
同 専門部会設置

専門的事項について調査検討を行うため、テーマ毎に「観光振興」「産業振興」「交通アクセス」の専門部会を設置
計6回の協議および先進事例視察調査を実施
観光振興...観光資源の充実、広域連携・受入体制・誘致宣伝活動強化など
産業振興...各種産業振興策、地域ブランド確立、中心市街地活性化など
交通アクセス...鉄道アクセス・道路ネットワーク・公共交通機関の整備充実
など

部会協議経過、
アンケート調査
(市民・観光客対象)

部会協議やアンケート結果における委員、市民の主な問題提起

人口や経済規模が縮小するなかでの活性化策のあり方

昭和50年代以降の産業構造の変化や急速な高齢化・少子化による人口減少が進むなか、何をもちて活性化とするのか。

新幹線開業頼みにしない着実な産業振興策の必要性

これまで、景況感など「雰囲気」でしか語られなかった函館経済の弱さを国勢調査などから客観的に分析したところ、サービス業主体の産業構造（男性が定着できない）、離別（離婚）率の高さ、子どもの少なさ、世帯当たり人員の少なさ（可処分所得が低い）など、地域構造に顕著な現象が見られ、検証により各指標の相関も判明（完全失業率と離別率と一人当たり所得など）。長期目標（上記の地域構造対策）と中期目標（新幹線アクションプラン）の役割整理。

北斗市に設置される新函館駅との円滑な交通アクセスの確立

現函館駅から約18km離れた新函館駅の距離感を克服するため、在来線を活用した現函館駅までの鉄道アクセスの充実化やバス・タクシー・レンタカーサービスの向上充実化を求める声。

函館圏域・道南地域の連携のあり方

住民本位の視点に立ち、企業活動や住民生活にとって不便不利益が生じないように圏域自治体連携による基盤整備を求める声。

平成20年11月
アクションプラン
策定

【考え方】人口減少・構造問題など、長期的な地域課題の解決に貢献できる活性化策として、域外から所得を得るための「移出化」と「域内需要創出」、域外に所得を逃がさない「域内所得循環化」、それらを実行できる「人的資本強化」の各取り組みが必要

【展開】付加価値や満足度の高い「財・サービス」を供給し、「ヒト・モノ・カネ」の流れを取り込む

「楽しめる」「行きたくなる」まちの演出（観光振興分野）

「楽しみやすい」「行きやすい」環境整備（交通アクセス分野）

「楽しそうな」「健康な」企業と市民の育成（産業振興分野）

平成22年12月新青森開業
平成27年度新函館開業

アクションプランの実現による
経済活動の活性化



将来の地域の姿(長期目標)

市民が暮らし続けられる地域社会・経済基盤の構築
地域課題の解決、悪循環の克服、衰退の抑止

アクションプラン分野別の展開

北海道新幹線の開業効果を地域に最大限結びつけていくためには、時間短縮や輸送力の増強による交流人口の増加といったプラス要素はもとより、企業の出先機関の集約や地元消費が大都市圏に流出するストロー現象といったマイナス要素など、開業による環境変化を十分に想定するとともに、高付加価値型への産業構造転換や人口減少時代の到来、ライフスタイルの多様化など、時代の潮流を的確にとらえながら、地域の特性や資源を有効に活用した個性的で魅力あふれる地域づくりを、官民一体となって着実に進める必要があります。



【観光振興分野】

新幹線開業によって、特に北関東や東北地域からの観光入込客数増加が期待されることから、観光客のニーズ把握に努めるとともに、観光都市として函館が有する高い知名度を十分に生かし、豊富な地域資源の有効活用、新たな観光資源づくりをはじめ、満足度向上のための受入体制強化のほか、効果的な宣伝活動の実施など観光産業の振興を図ります。

一覧表施策コード01～13、20（11～13、20は重複）

【産業振興分野】

新幹線開業をさまざまな分野においてビジネスチャンスが生まれる絶好の機会ととらえ、地域資源の開発や地場産品の販路拡大に取り組むほか、未来を担う人材や企業の育成・誘致、就労機会拡充のための雇用の創出とともに、現函館駅周辺地域の拠点機能維持向上や中心市街地の活性化など、賑わいを創出する施策を展開し、地域産業の活性化に取り組みます。

一覧表施策コード11～20（11～13、20は重複）

【交通アクセス分野】

新函館駅が本市から離れた位置に設置されることから、幹線道路網の整備促進のほか、新函館駅における在来線鉄道・二次交通との乗り継ぎ利便の向上、空港・港湾など交通拠点との相互連携を図り、交流人口の増加に向けた新幹線利用者の円滑な交通アクセスの充実に努めます。

一覧表施策コード20～26（20は重複）

なお、アクションプランの本編は「北海道新幹線2015年新函館開業WEBサイト」からダウンロードできます。

【URL】 <http://www.shinkansen-hakodate.com/>
各種団体などへの出前講座も行いますのでお気軽にお問い合わせ下さい。（本件担当：地域振興課 TEL0138-23-1181）

アクションプラン施策・項目一覧表

アクションプラン施策コード	実施項目
[01]全市民をあげて観光客を迎える態勢づくり	ホスピタリティ向上事業の複合展開 「はこだて検定」合格者の活躍の場づくりと、観光現場での資格活用策の構築
[02]函館観光の「質」の向上	観光分野における「よくある質問・苦情」の情報集約と活用
[03]新たな観光資源の整備と既存資源の磨き上げ	新たなテーマ設定による観光資源の整備 多彩なまちあるきメニューの創出 宿泊を誘発するコンテンツの集約と情報提供
[04]体験観光メニューの創出・充実強化	新たな体験型観光メニューの充実 来訪者が地域の「祭り」に参加できる仕組み創出
[05]イベントの充実による魅力創出	魅力ある新規イベント創出、既存イベントの充実と情報発信力の強化 イベントの連続開催による総合的な魅力向上 周年・記念イベントの開催
[06]道南圏周遊型広域観光ルート開発と滞在促進	多様な道南観光周遊ルートの確立 長期滞在を可能とする宿泊割引制度などの導入
[07]青函圏観光ルート・新規交流プログラムの創出	縄文をテーマとした広域文化観光圏づくり 新たな青函圏旅行プランの開発 青函ブランド商品の開発促進 青函両圏域に精通するガイド養成制度の創設 青函観光情報の共有とリアルタイムの情報提供
[08]着地型情報提供の充実	地域交流まちづくりセンターの観光案内機能強化 コンシェルジュ機能強化による満足度向上 地域情報の集約整理と効果的な発信
[09]コンベンション・ロケーションの受入環境整備	コンベンション開催需要に的確に応えられる施設の整備検討 コンベンション誘致・受入体制の再編 フィルムコミッションのさらなる充実
[10]マーケティング強化による戦略的なPRの実施	各地域や各旅行形態におけるニーズの把握 「函館は東北」キャンペーンの実施 オーストラリア観光客への宣伝強化（冬季） 東アジア観光客の誘致強化
[11]函館の魅力を伝えるプロモーションの充実強化	「シティセールス」など函館のブランド力（長所）をふまえた多面的PRの実施
[12]真の「国際観光都市」づくりのための環境整備	外国人観光客がまちあるきしやすい環境構築（ハードの整備） 緊急・救急対応など外国人観光客への対応力向上策の推進
[13]函館ブランドの創出・向上・販路拡大	事業者・業界団体・支援機関を網羅した「函館ブランド」推進組織の設置による地場製品のブランド化 地域資源・地場製品の開発と育成 函館ブランドのPR強化と販路拡大
[14]地域の未来を担う人材の確保・定着・育成	雇用対策関係事業の推進
[15]新幹線を利活用した市場開拓と基盤整備	「圏外市場進出プロジェクトチーム」の設立運営 物流対策についての協議
[16]ステークホルダーの連携促進による産業育成・創出	「産学官（プラス金融）」連携の促進 「函館地域産業活性化協議会」等との連携による管外資本企業誘致活動の推進
[17]域内需要創出・所得循環化の促進	地産地消・地元調達への推進 域内の需給ミスマッチの検証と改善
[18]中心市街地への賑わいの誘導・創出	集客施設の新設・誘導・再活用 都心居住・都心就業策の推進
[19]函館圏域の連携強化	「函館地域産業活性化協議会」（平成20年2月設立）との連携と、枠組みを応用した「(仮称)函館圏地域づくり協議会」設置による協議・協働
[20]域内交通・交流インフラの整備促進	道路交通基盤の整備、関連機関との協議 公共交通各機関結節強化・終電終バス延長等運行改善・社会実験 「はこだてチケット」（仮称）の構築 運行情報の相互発信
[21]新函館駅連絡バス運行の充実	新函館駅と観光・交通拠点を結ぶバス路線新設と既存路線の拡充
[22]タクシーサービスの充実	乗合タクシーの運行
[23]レンタカー機能の充実	旅行形態に対応した車種の導入促進 広域エリア乗り捨て代金の無料化推進
[24]新函館駅・現函館駅間の鉄道アクセスの充実	利用者ニーズに対応したリレー列車の整備 リレー列車内でのサービス提供 乗り換え利便の高いホームの整備
[25]新函館駅との接続道路などアクセス環境の整備	新函館開業を見据えた高規格幹線道路等の整備 新函館駅部の接続環境の整備
[26]新幹線運行の充実	新幹線運行本数の充実と車両数の確保